

# FICoN第11回ウェブ検討会 (R6.12.4)

## ○ 「ポスト・ウッドショック時代の森林産業」

### <講演>

「ウッドショックが残したもの—爪痕、教訓、変化の兆し—」 森林総合研究所 嶋瀬拓也氏

「最近の木材需給動向を踏まえた国産材の安定供給体制のあり方」 林野庁 鈴木清史氏

「ポスト・ウッドショック時代の木材輸入について」 伊藤忠建材(株) 関野博司氏 (日本木材輸入協会会長)

「ウッドショック後に国産材製材がなすべきこと」 瀬戸製材(株) 瀬戸亨一郎氏 (国産材製材協会副会長)

「地域工務店が経験したウッドショックとは？」 岡庭建設(株) 池田浩和氏 (JBN・全国工務店協会副会長)

<総合討論> (司会) 京都大学 立花 敏氏、(パネリスト) 上記講師の皆様

### 【ポイント】

- ・ウッドショックは、国産材サプライチェーンの課題や世界の木材貿易における日本の購買力低下を浮き彫りにした。
- ・ウッドショックの経験や円安を背景に、国産材も住宅部材として使えるという意識が浸透し、輸入材から国産材へシフトする動きがある。
- ・国産材の供給力向上には乾燥設備などの製造能力だけでなく、営業力、在庫力、そして原料を供給する国内林業の実力アップが必要。
- ・ウッドショックを繰り返せば木材のパイが他の基礎素材に奪われていく恐れ。国産材VS輸入材、川上VS川下の対立ではなく、業界の壁を越えた連携と正しい情報の共有が重要。